

# 絵でつないできた37年間 カナガワビエンナーレ

## 国際児童画展 回顧展

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、大賞3点(海外2点と神奈川県1点)、外務大臣賞(海外1点)、総務大臣賞(神奈川県1点)、国際交流団体からの特別賞(2015年時点で6団体。各団体賞海外6点、神奈川県2点)、及び一般入選作を含めて毎回500余点を展示しています。

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、2019年に第20回展を迎えます。そのプレ展示となる今回の《カナガワビエンナーレ国際児童画展 回顧展》では、神奈川県の大賞作品18点を中心に、展示機会が少なかった初期の作品から最新作までを鑑賞することができます。あわせて過去の海外および神奈川県の一般入選作100余点も展示しています。

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、1979年の国際児童年がきっかけで、1981年にスタートし、隔年で開催を続けています。第1回展開催の前年(1980年)の世界情勢を振り返ってみますと、東西冷戦の展開から起きたモスクワオリンピックのボイコット問題、韓国では民主化抗争の光州事件、イラン・イラク戦争の勃発、中央アメリカのエルサルバドル内戦などが起きています。日本では、戦争の傷跡を改めて思いおこさせた中国残留孤児たちの初来日が1981年にありました。2016年の今日に至っても、私たちの生活に少なからず影響を与える事件や現象が国内外で起きています。

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》には、何気ない平和な日常生活や学校生活を描いた作品、自分の住む国や地域で起きた悲しい出来事をテーマにした作品など、さまざまな視点で、さまざまな思いで、描かれた作品が寄せられています。

最後に、第1回展(1981年)の作品図録に、当時の神奈川県知事・長洲一二氏が寄せたあいさつ文の一部をここに引用いたします。

県政の重要な柱として「民際外交」を提唱し、推進してきたと記したのち、『民際外交事業の一つとして外国に神奈川を、神奈川に外国を紹介し、お互いの生活、文化を理解し合うため、かねてより国際フェスティバルを計画してまいりました。「カナガワビエンナーレ国際児童画展」は、こうした観点から企画、実施されたもので、幸いにして多くの方々の御理解と御協力をいただき、世界各地から多数の子どもたちの作品を寄せていただきました。その意味で、「第1回カナガワビエンナーレ国際児童画展」は、単なる児童画の展覧会ではありません。それは、世界の子どもたちと神奈川の子どもたちが絵画を通じてお互いに知り合い、語り合い友情を深めていく「明日の広場」といえましょう。作品をみてもおわかりのように、国が違い、民族が違い、言葉や顔が違ってもこれらの絵はすべての垣根をとりはらって、まっすぐに生き生きと私たちに語りかけてくれます。子どもたちの世界は一つです。この純真な子どもたちの語り合いの中にこそ、新しい世界が開けていくことでしょう』。